

# 2021年度、医学協会 人間ドックでは 「212件」のがんを 発見しました!

当会の発見率は「0.375%」であり、全国平均の「0.296%」の**1.27倍**です。

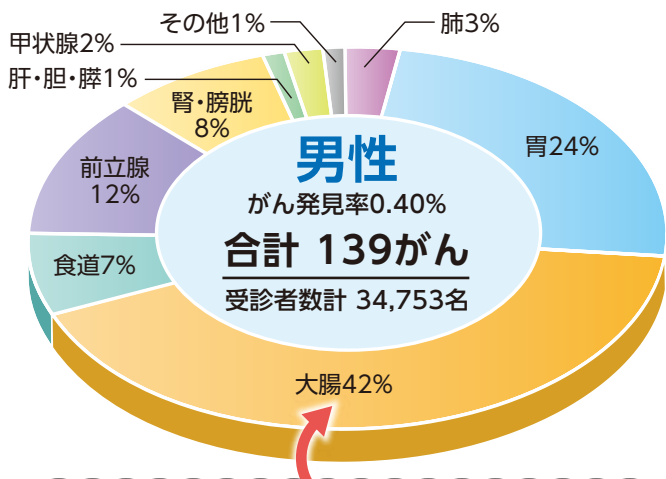
医学協会：当会人間ドック実績(2021年度)。全国平均：日本人間ドック学会 vol. 37「人間ドックにおけるがん登録-2019年度の成績-」より

当会では、精検受診者数やがん発見数などの**数値をしっかりと把握**しています。  
検査精度を上げるためには、**必要不可欠**なものだからです。最新の当会実績をご紹介します。

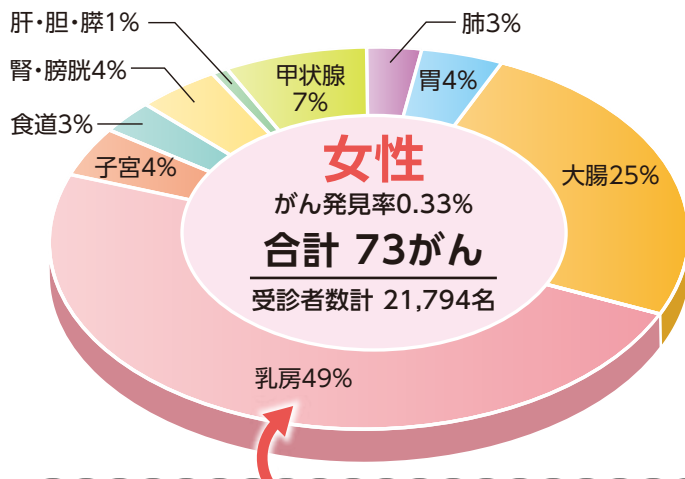
## 当会のがん発見数(2021年度)

検診後、精検受診勧奨・フォローアップを行い、  
その結果を公表しています。

### 当会2021年度実績

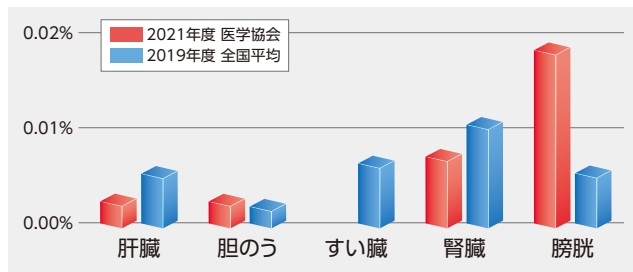
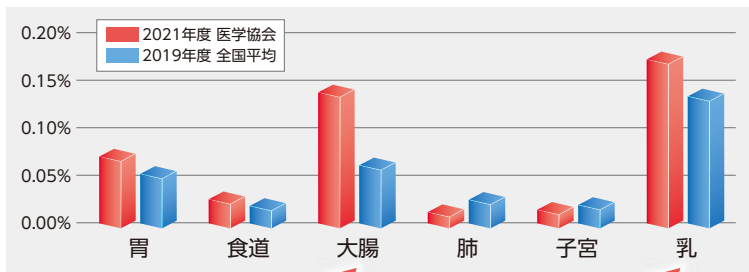


男性の1位は**大腸がん**で、次いで**胃がん**が多いです。



女性の1位は**乳がん**で、次に**大腸がん**が多くなっています。

### 部位別のがん発見率



全国と比較すると、**大腸がん**、**乳がん**の発見率が高くなっています。

当会はおお客様より更なる信頼をいただけますよう、  
がん発見率等の健診の品質に関わるデータをしっかりと捉えシステムを磨き続けています。

県内初!!

新たに追加した無料検査

## 「尿中アルブミン」

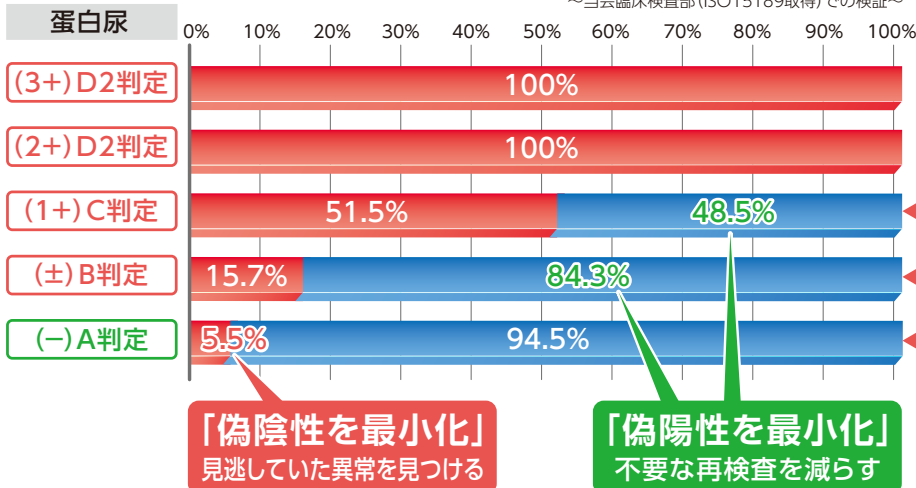
一般的な尿検査では、検出できないほどのわずかな蛋白質を調べる検査です。

### 慢性腎臓病を早期発見するために

腎機能が低下すると、尿の中に蛋白質が漏れ出る状態が続いてしまいます。日本の成人の8人に1人が罹患しているといわれます。糖尿病腎症などの慢性腎臓病、そして、その先に待ち構える透析への進行を防ぐための検査です。

#### 尿蛋白判定ごとの尿中アルブミン陽性率

～当会臨床検査部 (ISO15189取得) での検証～



陰性とすべき検体を陽性として、再検査へ

- 尿蛋白が(±)でB判定の方のうち、尿中アルブミンの8割が陰性
- 尿蛋白が(1+)でC判定の方も、約5割が陰性

一部が見逃されていた

- 尿蛋白が(-)でA判定の方のうち、尿中アルブミンの5.5%が陽性

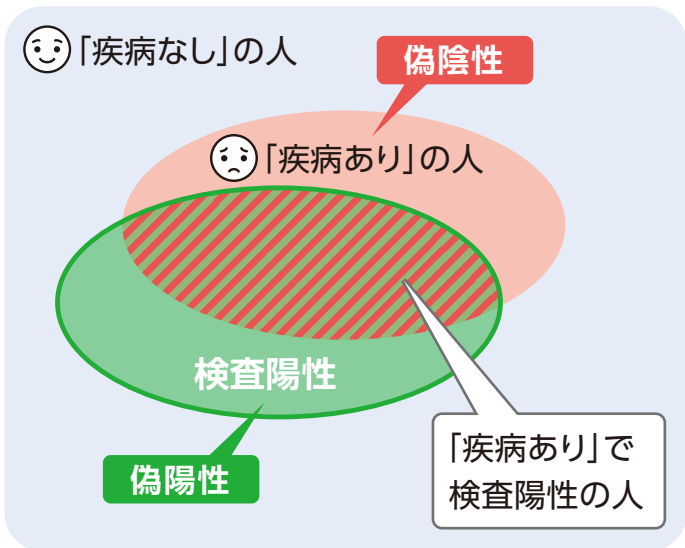
「偽陰性を最小化」  
見逃していた異常を見つける

「偽陽性を最小化」  
不要な再検査を減らす

## 「偽陽性」「偽陰性」を最小化する取り組み

### 「偽陽性」「偽陰性」を最小化にするとは

疾病があれば100%陽性、なければ100%陰性となるような検査が理想ですが、どうしても「偽陽性」「偽陰性」の判定が出てしまいます。「検査の質」をより向上させることで「偽陽性」「偽陰性」の最小化に努めます。



### 「偽陽性」「偽陰性」とは

**偽陽性** : 実際は「疾病なし」なのに、検査結果は「疾病あり」

- 結果が陽性となることで受診者様は不安に
- 精密検査を受診する時間の拘束や費用負担

**偽陰性** : 実際は「疾病あり」なのに、検査結果は「疾病なし」

発見に至らなかった疾病

高 ← 検査の精度 → 低



当会の人間ドックでは「尿中アルブミン」以外にも精度を上げるための多くの検査項目を無料で実施しております。

## 当会の感染症対策について

- 体温測定、手指消毒の実施
- 施設や検診車内の消毒・清掃
- 換気の徹底
- 飛沫防止シートの設置
- 受付時間の分散化
- 施設内、検診車内の空間除菌
- 検査機器や備品のアルコール消毒
- 椅子やソファの間隔確保